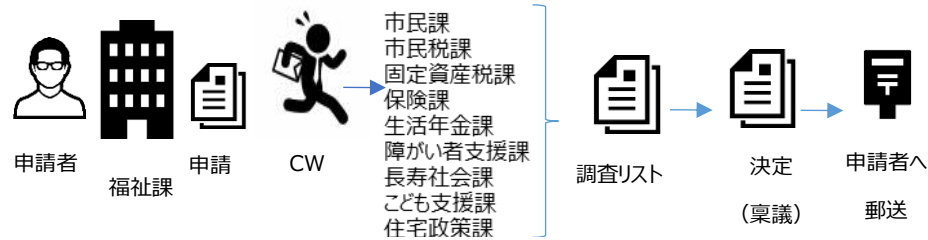


「スマートケースワーク」概要図

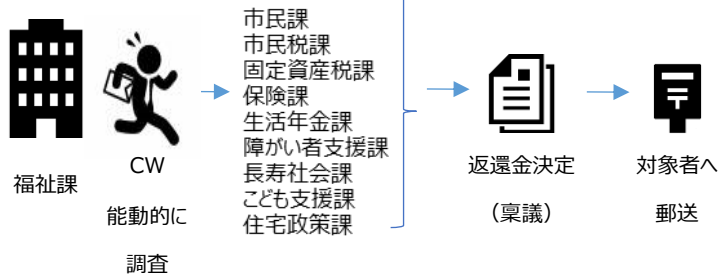
従来事務スキーム

【生保新規申請】



新規調査はCWが各課へ行き情報を集めるが、調査項目が多岐にわたるため、調査だけで1時間以上かかっている...

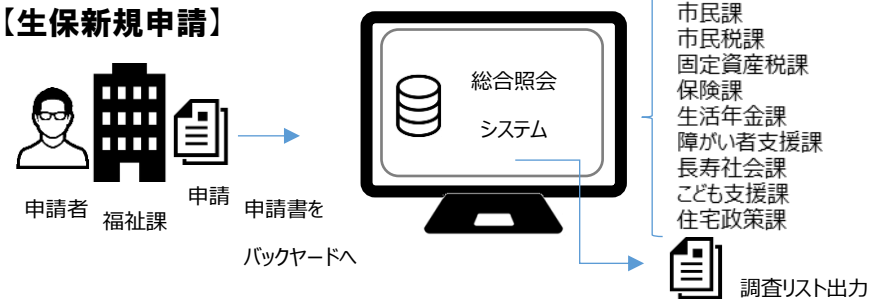
【返還金事務】



世帯の変更や児童手当額の変更等が事前に捕捉しにくいいため、保護費の返還事務が発生しやすい...

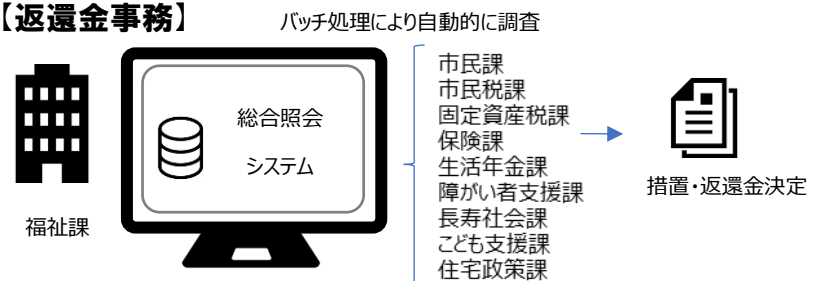
総合照会システム導入後

【生保新規申請】



各業務システムが保有するデータを自動収集することにより、保護決定までのプロセスを迅速化し、生活保護事務の効率化を図る。

【返還金事務】



各業務システムが保有するデータを自動収集することにより、返還金発生を防止、または返還金決定までのプロセスを迅速化する。

デジタル活用後

取組調書（アイデア部門）

地方公共団体名	米子市		
アイデア名称	スマートケースワーク		
連携自治体、企業、団体等	株式会社ケイズ		
デジタルを活用したアイデアの概要（デジタルを活用したアイデアの全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	(種類) (注)	②	(左記が①の場合の分野)
	<p>【デジタルを活用したアイデアの全体概要】</p> <p>○生活保護申請者及び受給者の調査にあたって、収集可能なデータを一括で参照できるシステムを構築し、業務の効率化を図る。</p> <p>○庁内システムが保有するデータの異動を把握し、決定へ反映させることで迅速で正確な保護決定を実現する。</p> <p>【実施に至る経緯・動機】</p> <p>○現状、生活保護申請者や受給者の状況を調査するには担当課へ出向く必要があるため、多大な時間を要し、担当者の業務的負担が大きい。</p> <p>デジタルを活用し効率化を図ることで、より迅速な保護決定が実現できると考えたため。</p> <p>○これまで手当の金額変更等、能動的に情報を収集するしかなく保護決定の遅れにより返還金が発生することがあったが、データを自動収集することで返還金の発生を抑制できると考えたため。</p> <p>【解決する課題の具体的内容】</p> <p>○生活保護申請者や受給者に関する各種調査にかかる時間を削減する。</p> <p>○保護決定の遅れにより発生する返還金を抑制する。</p>		
デジタルの活用により目指す成果（数値）	<p>～従来～</p> <p>(新規申請の場合) 申請数：40 件/月 1～2 時間/件</p> <p>～デジタル活用後～</p> <p>(新規申請の場合) 3 分/件</p> <p>⇒最大 117 分/件削減</p> <p>→新規以外の定期的な業務でも活用予定</p>		

米子市

本アイデアの特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	<p>① 時短化 これにより保護決定までの時間を短縮できるため、困窮している者へ速やかに援助することが可能となる。</p> <p>② 省力化 現在、担当 CW が紙で各部署へ調査に赴き処理している事務をデジタル化により効率化することで、大幅に業務負担の軽減を図ることが出来る</p> <p>③ 債権の削減 自庁が保有する情報に異動（世帯の変更や児童扶養手当額変更）があった際に生活保護担当に自動で表示され、保護費への反映を遅滞なくできるようにする。</p>
今後の展望	事務負担軽減により深刻化していく人手不足等の課題に対応することが可能となる。また複雑化している住民からの相談に対し、サービスを低下させることなく業務を行っていくことができる。

注： 以下の①または②のいずれかを選択

- ① デジタルの活用により、次の個別課題を実際に解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や地域の産業振興につながっているもの。
(・医療 ・教育 ・子育て ・物流 ・交通 ・農林水産業 ・中小企業 ・観光 ・防災)
- ② 高齢者、障がい者などデジタルに不慣れな人々がデジタル機器・サービスの利用方法を学ぶことができる環境づくりを既に進めるなど、あらゆる人がデジタル化の恩恵を享受できる、「誰一人取り残されない」社会の実現に寄与しているもの。